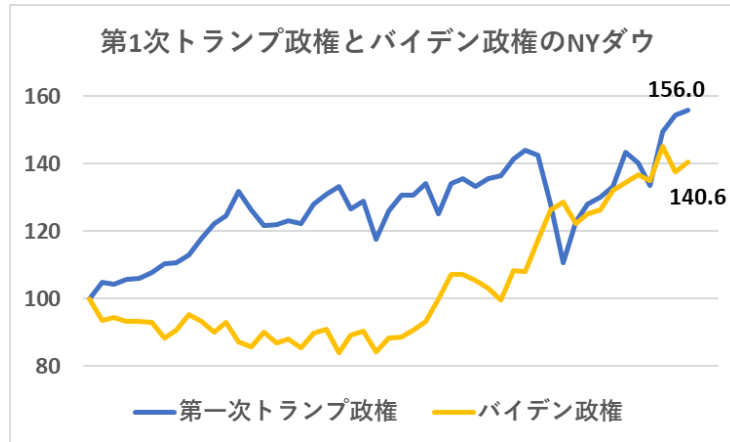


ATTENTION

「トランプが大統領で大丈夫？」の心配は無用



このグラフは、第一次トランプ政権(2017年1月20日～2021年1月20日)とバイデン政権(2021年1月20日～2025年1月20日)までのニューヨークダウを比較したものです。これを見ると、4年の任期で、二人の大統領の株価パフォーマンスの差が、はっきりと出ています。トランプ政権の56.0%上昇に対して、バイデン政権は、40.6%の上昇。4年の任期で、この差は、1年で4%の差になり、この差は大きいです。また第一次トランプ政権では、2020年3月のコロナ感染急拡大の時に、大きく下げたのを除き、一貫して右肩上がりとなっています。また、コロナ禍の急落後の反転も際立っています。またバイデン政権の前半の2年は低迷期が続き、就任時のレベルに戻すのに2年かかっているという形です。両方の大統領の統治時に、様々な外部要因があることは確かですが、少なくとも、トランプのハチャメチャに見える政権運営がマイナスだったとは言えないということです。第2次政権となる今回も、就任初日に100本の大統領令に署名したり、グリーンランドを買うとか、パナマ運河を接收すると表明したり、DEI(多様性、公平性、包摂性)を放棄することを宣言、不法移民は軍用機で強制送還と、世界一の大国の大統領がすることかと、まるで劇を見ているようです。それでも、それは外見の問題で、要はまとまるところにまとまるということ、米国にははかり知れない懐の深さがあるのです。見ていて面白いと言えば不謹慎ですが、トランプ大統領によるマイナスはなく、堅調な推移をたどるでしょう。

COLUMN

すぐに自信に溢れた強い人間になる方法

いかにもアメリカ的思考の書を紹介しましょう。著者はマイクロソフト、HP、世界銀行、財務省などでコーチングしてきた人物です。

- ・日々自信がつくように小さなことを積み上げる。自信は、筋肉を付けるようなもので、積み重ね。気持ちの持ち方、振る舞い方、人への向き合い方の3つの面で鍛える。
- ・第一印象が大事。縮こまなくて、まずは関係づくり、相手の懐に入る、自分のことはあと。明るく挨拶。服装はやる気あふれるものに。
- ・どこでもうまく入り込むには、大胆に自信をもって自分らしく振舞う。背筋を伸ばし、アイコンタクト、しっかりと話す。お世辞を素直に受け入れ、「ありがとう」という。
- ・気持ちを強く持つには、誤り過ぎない。下手に出ない。途中で話して割り込むには、少しトーンを上げる、人が割り込まないように、ジェスチャーを入れる。自分の強みを示し、見くびらせないようにする。
- ・働き過ぎは、燃え尽き・解決能力の減少につながる。ペースをよくわきまえ、ほどほどに進める。ぐずぐずしないで、てきぱきとこなす。言葉は明瞭に、「あー」とか「えー」とか入れない。
- ・先延ばし、自己弁護、完璧主義は、進歩を阻害する。しっかりできる一つのこと集中する、さらに心地よくやりながら進歩できる方法を考え、中身のある仕事を目指す。
- ・目標を書き留め、自分を伸ばす気構えをもつ。後ろ向きでなく、自分ではできると前向き思考を持つ。自分の感情、肉体、心理、精神をうまくコントロールすることが大事。

Quick Confidence by Selena Rezvani, Wiley

MARKET

	(1月末)	(12月末比)
日経平均	39,572.49円	-322.05円 (-0.81%)
NYダウ	44,544.66ドル	+2,000.44ドル (+4.70%)
米ドル	155.25円	-2.00円 (-1.27%)

私の書棚より

- ・事業の上で成功する根本の原則は価格ではなく、もっと重大な仕事の質にある。
- ・大企業というものは、厳しい誠実さの上になだけ築き上げられるもので、それ以外の何も要求しない。

『カーネギー自伝』 A・カーネギー著

なぜ、アメリカは最強なのか、400年の歴史から紐解く

手元に、私のファーストネーム宛の著者署名入りの英書(560ページ)があります。タイトルは「Americana 400-year History of American Capitalism by Bhu Srinivasan」。株式市場は、米国一強となっていますが私は、なぜアメリカは強いのか、歴史から紐解きたいと思っていましたので、この書は格好の書でした。

米国の生い立ちは、移民で成り立っています。この著者も8歳の時に、インド人の母に連れられて来ました。建国以来、一旗揚げよう、もっと良い生活をしようと、未知の国にくるのです。ゼロから国を作り上げていくのに、人出が必要で、移民は大歓迎。交通手段に、まずは運河が必要、次に来たのが鉄道、そして橋。自動車ができると、全米をノンストップのハイウェイ。19世紀の半ばには、カリフォルニアでゴールドラッシュ、原っぱから、オイルが噴き出す。その石油で、ロックフェラーが巨万の富を築きましたが、この石油が、次の100年の繁栄が加速させます。

零から始まったため、白紙に絵がかけました。来る人はみな平等で、誰にもチャンスがある。人々はどのような制度をつくったらいいか、試行錯誤を重ねながら、よく機能する制度を公共的使命を踏まえて作ってきたのです。一方でアフリカからの黒人は、長い間米国の負の面でした。

米国は、フランス、英国王室とか、ローマ、ギリシャの時代から、延々と続く国とは違います。インディアンが住むだけの、未開の地に、ゼロから国をつくったのです。

著者は言います。米国の社会制度の強さは、実用主義と柔軟さにある。試行錯誤をして、南北戦争のような解決困難と思われる問題でも、適者生存のような解決策を見出す。民主主義と資本主義の間で相対立することがあるが、両者の間でベストの妥協点を見出す。そして、自由な人々が自由な市場をチェックする仕組みが、自然的にできてきた。いわば、国の仕組みが柔構造なのです。

インターネットのwwwは、イギリスやヨーロッパにルーツを持つが、実用化したのはアメリカ。ガレージで始めるような初期の段階から、シーズマネー(種となる資金)を提供し、実るまで、寛容の精神で待つ。株式市場も、産声を上げたときから受け入れる。これはだめ、これはむずかしいと、入り口で扉を閉ざすことがないということです。

アメリカのカルチャーは「ハスラー」(手荒くやる人)を好むとのこと。何もかも捨てて、夢を追いかける人、特に金儲けで一旗上げようという人を好む。そして失敗に対しては寛容で、ジョブズもゲイツも大学をドロップアウト。そして、未知の道を独自に切り開いた。これは究極の自由といえる。ヨーロッパ、イギリスでは、いまだに貴族階級制的感覚があり、出自や大学などによるエリート主義が残るが、アメリカは違う。泥臭くプランを売りこみ、説得し、そして実行する。もっとも豊かな国であるなか、驚くべき活力とダイナミズムが、すべてを捨てて、金(ゴールド)を求め続ける。

この書を読んで、私も納得しました。米国は、ほかの国とは成り立ち、生い立ちがまるで違う国なのです。

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に勧めるのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男
公認投資助言者(RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ!

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp